

【高等学校用】

令和5年度学校評価 結果

達成度(評価) A: 十分達成できている B: おおむね達成できている C: やや不十分である D: 不十分である
--

学校名	佐賀県立有田工業高等学校 定時制課程
-----	--------------------

1 前年度 評価結果の概要	・生徒個々の学習状況等に関して、担任及び授業担当職員からの声掛けにより、生徒の学習意欲の向上を図ることができた。職員相互の授業参観やオンライン授業の職員研修を行った。今後も、生徒目線に立ち、最適な学習環境づくりの実施に向けて研修を進めるとともに、学習用パソコンについても、積極的な授業での活用を進めていく。 ・毎週の生徒連絡会で生徒情報の共有を行ったことにより、生徒間のトラブルや学習状況の把握等、組織的に生徒支援に努めることができ、学校が安心して過ごせる環境として機能できていたと思われる。また、スクールカウンセラーからの助言も大変参考になった。いじめに関しても、担任や生徒指導部で協力して面談を行うなど、早期発見、早期対応を行った。健康・体力づくりについては、毎日の「生活チェック表」と「心のチェック表」の記入で、生徒の小さな変化に気づき対応することができた。 ・業務改革・教職員の働き方改革については、会議資料の事前配布と会議時間の短縮に努めた。各部署の業務についても職員間の報告・連絡・相談で連携し、業務改善につながるよう努力した。オンラインによる授業や集会については、効果的な活用法について、定期的な研修を計画していきたい。
---------------	---

2 学校教育目標	勉情 「愛し」「創り」「光れ」を礎とした自立型人間の育成
----------	------------------------------

3 本年度の重点目標	① 出席率の向上と教育活動の充実 ② あいさつ、服装、マナー指導の徹底と思いやりの心の醸成 ③ 進路保障に繋ぐ学力向上、資格取得、部活動 ④ 生徒、職員の心身の健康増進
------------	---

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価
---------------	------	--------

(1)共通評価項目				中間評価		最終評価	
評価項目	重点取組	成果指標(数値目標)	具体的取組	進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果
				●学力の向上	○出席率の向上 ○基礎学力の向上と学習意欲の喚起 ○基礎学力向上を目指すことにより、進路実現へ繋いでいく。	○出席率90%以上を目指す。 ○「学校評価生徒・保護者アンケート」を年2回実施し、「学力の向上」の項目の回答の平均値についてそれぞれ「3.2」以上を目指す。 ◎就職率・進学率を100%にする。	・欠席が多い生徒・保護者に対して、授業の欠席状況等を定期的に伝える。 ・生徒の学習意欲の向上のために、教師の指導法の改善と学力の定着を目的とした、職員相互の授業見学と公開授業を実施する。 ・就業率を上げるための進路指導を行う中で過去問題やSPI対策の充実を図る。 ・基礎学力向上のため、国・数・英での小テストを行っていく。
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○学校評価生徒アンケートの「心の教育」の項目の平均値「3.2」以上を目指す。	・地域社会や学校生活との関連性を踏まえた内容で、特別活動の年間計画を策定する。 ・講話等の感想文を書かせることで、生徒自身の考えや気持ちを引き出す機会を設定する。	A	・開校記念行事では、生徒がアルバイトでお世話になっている事業主で、地域活性化等のコンサルティングをされている方から働くことの意味や魅力について講演をいただき、生徒の将来への展望を広げることができた。 ・講話・講演会では毎回感想文の記入を実施し、生徒それぞれが自分の考えを整理し、感想として書くことができた。	A	・開校記念行事での講話、生徒指導部・進路指導部・保健厚生部主催の講話、視聴覚教育など様々な学校行事の中で、自己肯定感を高め他者を思いやる心の醸成ができ、学校評価生徒アンケートの「心の教育」の項目の平均値が「3.5」以上の結果だった。
●健康・体づくり	●「望ましい生活習慣の形成」 ●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●「健康に良い食事をしている」生徒70%以上を目指す。 ○「健康・体づくり」には規則正しい生活習慣が必要であることを理解できる生徒80%以上を目指す。	・毎日の「生活チェック表」を記入することで、生徒自身が生活習慣を見直し、改善を心掛けるような意識付けをする。 ・給食喫食率が低い生徒への声掛けを積極的にに行い、食の大切さを伝えるとともに給食室への入室を促す。 ・生徒と保護者等を対象に、健康意識を調査するアンケートを実施し、健康管理能力を高めるような指導を行う。	A	・毎日の「生活チェック表」を担任・養護教諭が確認し、生徒の基本的な生活習慣の把握と生徒への声掛けをおこなうなど、生徒の生活習慣改善に職員が協力して取り組むことができた。 ・喫食率が低い生徒への声掛けを継続して行うことができた。 ・食育講話を実施して、清涼飲料水と健康に関する講話を行うなど、食と健康に関する知識について理解を深めるような指導を行うことができた。	A	・「健康に良い食事をしている」生徒は64.1%とやや目標に届かなかったが、「健康・体づくり」には規則正しい生活習慣が必要であることを理解できる生徒は94.0%と目標を大幅に上回ることができた。 ・生活チェック表記入を通じて、生徒が自分の基本的な生活習慣について毎日確認することができた。また、担任・養護教諭が生徒の基本的な生活習慣を把握し、改善へと働きかけることができた。 ・「保健だより」「給食だより」を定期的に発行し、生徒が食と健康に関する幅広い知識を身に付けることができた。 ・食育講話では、清涼飲料水と健康に関する講話を行い、清涼飲料水に含まれる砂糖の量や酸性度について、ペットボトルなどを使い視覚的にもわかりやすく指示することができた。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・各部署活動において礼儀作法指導や他者と協力して成果を得る活動を行う。 ・協調性や達成感を得る主体的な生徒会活動を実践する。	A	・第1回目学校評価生徒アンケートの「生徒会活動」の項目の平均値は保護者「3.1」、生徒「3.2」と目標値を上回った。職員は「2.7」と下回った。 ・生徒が主体となりスポーツフェスティバルなどの生徒会行事を行うことができた。	A	・第2回目学校評価生徒アンケートの「生徒会活動」の項目の平均値は保護者「3.2」、生徒「3.3」、職員「3.6」と目標値・第1回の結果を上回った。 ・生徒が主体となり準備期間の短い中、スポーツフェスティバル、文化祭(クラス出し物、デイベイキング、合同展示)などの生徒会行事に取り組むことができた。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・週1回の定時退勤日を設定する。 ・会議資料の事前配布により会議時間の短縮を図る。 ・職員間の意思疎通と報告・連絡・相談を徹底し、業務分担と互いに助け合う環境作りを努める。	A	・月の時間外在校時間については、4月が平均17時間06分、9月末までの平均が16時間43分と減少傾向にあるが、業務効率化の推進等によりより時間外在校時間を減少させた。 ・会議資料の事前配布は確実にしている。 ・職員相互の助け合う環境をさらに整備していきことが求められる。	A	・教職員の時間外在校等時間の状況についての「月の平均時間外在校等時間」については、2023年度1月時点が15時間22分と、2022年度1月時点の16時間09分よりも削減傾向にある。また、45h超過者が1名減となり、うち80h及び100h超過者については、2022年度よりも2023年度が45h超過者が1名減となり、うち80h及び100h超過者がともに1名増となった。 ・職員へ会議資料を事前配布し、会議時間の短縮を図った。

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価	
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果
				○地域産業との連携	★本科生や聴講生制度の取り組みを、セラミック科・デザイン科の特色も交え、地域へ発信する。	○授業や聴講生講座終了後にアンケートを取り、地域へ作品等を発信したことへの自己評価70%達成を目指す。	・本科生は、特色ある授業を通して、地域産業の技術者の育成に貢献する。 ・聴講生は、週3日の講座を通し、窯業コースはろくろ成形の技術習得、デザインコースは授業の聴講による知識・技能の習得で地域産業の技術者の育成に貢献する。

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育 ★…唯一無二の誇り高き学校づくり

5 総合評価・次年度への展望	・全校生徒40名中、中学時の不登校が38%、特別支援等の配慮を要する生徒が23%在籍する中、出席率90%超は、本校が生徒にとっての居場所となっていることの証だと考えられる。少人数の利点を生かした個別の学習体制をさらに整え、生徒の学力の向上を目指したい。 ・特別支援、教育相談では、専門家との連携による生徒支援を行うとともに、保健室、栄養士からは生徒の健康面についての指導等を行い、保健厚生部を中心とし、生徒の学校生活全般で全職員が協力して対応することができた。 ・生徒へのアルバイトの斡旋を積極的に行うことで、生徒の社会性と就業意欲の向上を図ることができた。卒業学年の進路も例年より早い時期に全生徒決定することができた。 ・業務改革・教職員の働き方改革については、勤務時間と休憩時間の切替を明確にし、個々の業務に対する意識の向上に努めた。各部署の業務についても職員間の報告・連絡・相談で連携し、業務改善につながるよう努力した。会議資料等のペーパーレス化については今後検討を進めたい。
----------------	--